

1 日 時 2024年(令和6年)7月19日(金)5校時

2 学年・組 3年4組

3 単 元 名 「現代社会の見方や考え方」

4 単元(題材)について

## (1) 単元観

本単元は、平成29年告示の中学校学習指導要領の公民的分野、大項目「私たちと現代社会」中項目(2)「現代社会を捉える枠組み」に位置付けられる。そして、「現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解すること」や「社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現すること」を目標としている。

身近な生活やニュースなどを取り上げ、社会生活における「対立と合意」、「効率と公正」という基準から判断することを通して、社会とどのように関わっているか、さまざまな具体例を基に、自分の考えをまとめたり、議論を通して考えを深めたりすることで、社会に対するさまざまな見方・考え方を育てることができる単元である。

## (2) 生徒観

| 内容                                                                   | 肯定的(%)<br>(よくあてはまる) |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 授業では、課題を解決するために、どのような方法だと解決することができるかを考えています。                         | 62.5 (34.4)         |
| 授業では、課題を解決するために情報を集め、それを比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して考えています。 | 75.0 (28.1)         |
| 授業では、わからないことや疑問に思ったことをグループ内で聴き合うことで、考えを深めています。                       | 78.1 (40.6)         |
| 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表をしています。                      | 53.1 (15.6)         |

上記の授業内アンケートの結果から、肯定的に回答した割合は比較的高いが、「よくあてはまる」と答えた割合が非常に低いことがわかる。特に、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えることに大きな課題が見られる。また、これまでパフォーマンス課題を通して、情報収集や資料内容の読み取りを行ってきたが、複数の資料を精選して活用することに関しては難しい状況である。授業時には理解できているが、それを自分の生活に活用できるまでには至っておらず、社会科の学習を実生活と結び付けることができているという課題が見られる。

## (3) 指導観

指導にあたっては、義務教育の最終学年として、これまで地理的分野、歴史的分野で培ってきた力を活用して、社会科の総まとめとして、社会科の目標である「国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成したい。そのために、次のことに留意する。

## ① 現代社会の見方・考え方の理解と、情報を効果的に調べまとめる技能の育成

- 教科書にある資料だけでなく、インターネットやフォームを活用したアンケートなど様々な

方法で必要な収集する場面を設定する。

- ・ ジャムボードで課題を考えたり、「対立と合意」、「効率と公正」を基準にロイロノートに考えをまとめたりするなど、ICTを活用し、考えを整理できるようにする。

② 社会的事象について思考・判断・表現する力の育成

- ・ グラフや統計資料などを読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを説明する活動を積極的に行う。その際、聴く側は説明を受けて分からなかったことを質問するよう、教師が促す。
- ・ 自分の考えを、自信を持って説明することが苦手な生徒が多いため、ヒントカードを用意し、使う言葉を示したり、生徒によって説明の型を示したりするなどの支援を行う。

③ 課題を主体的に解決しようとする態度の育成

- ・ 単元の最初に単元全体の流れ、ゴールを提示することで、学習の見通しをもてるようにする。
- ・ 公民的分野は実生活とのつながりが非常に強い分野であるため、生徒が授業内容を自分事として捉えられるように、パフォーマンス課題に「新しい校則の提案」を設定する。
- ・ 自ら解決しようとする意識を高めるために、課題設定において、生徒に疑問や、考える必然性を持たせる工夫をする。
- ・ 興味や関心を持たせるために、学習内容とニュースなど実生活に身近なことを関連づける。

5 単元の目標

- (1) 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解できる。人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解できる。

(知識及び技能)

- (2) 対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、決まりの役割について多面的・多角的に考察し、表現できる。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

6 単元（教材）の観点別評価規準

| 知識・技能                                                                                                                       | 思考・判断・表現                                                                           | 主体的に学習に取り組む態度                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。<br>②人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。 | ①対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ①現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題に沿って解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、相手に伝わるように話す事柄の順序を考えて発表しようとしている。 |

## 7 指導と評価の計画（6時間）

| 時         | 主な学習活動（○）・手立て（●）・ICT（★）                                                                                                           | 知 | 思 | 態 | 評価方法等            |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|------------------|
| 1         | ○社会集団の中での課題を知る<br>○実生活での課題をグループで収集する<br>●学習の見通しをもつことができるよう、パフォーマンス課題を提示する<br>★課題を収集するためにインターネットを用いる                               | ① |   | ① | ノート              |
| 2         | ○決まりの必要性と解決策を作るために必要なことを議論を通して考える<br>●実生活と関連付けて考えるように促す                                                                           |   | ① | ① | ノート              |
| 3         | ○校則の内容を把握し、グループで議論を通して課題を探す<br>○必要に応じて決まりを見直す意義について考察する<br>●★ロイロノートで校則を提示し、学校の課題を考えることができるようにする                                   | ② | ① |   | ロイロノート<br>ノート    |
| 4         | ○情報を収集し、学校内の課題を整理する<br>○後輩からのアンケートを参考に学校の課題について考える<br>●自分の思いに加えて、他者の視点も取り入れて考えるように促す<br>★フォームで後輩が考えている学校の課題を知る<br>★ジャムボードで課題を整理する |   | ① |   | ジャムボード<br>ロイロノート |
| 5<br>(本時) | ○学校生活に必要な校則を作成する<br>●「対立と合意」、「効率と公正」の視点を示して、提案する校則を作成するように促す<br>★学校に提案する校則をロイロノートに作成する                                            |   | ① |   | ロイロノート           |
| 6         | ○仲間の意見を参考に修正した校則を発表し、共有する<br>●根拠を示して発表するように促す<br>★ロイロノートを提示し、提案する校則を発表する                                                          |   | ① | ① | ロイロノート           |

8 本時の展開（5時間目）

| 学習内容                           | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                     | 評価基準と方法                                                                                                                        |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○前時の内容をふり返る。                   | ・後輩の意見などから学校にはどのような課題があったのか確認する。                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                |
| ○本時の流れを確認する。                   | ・活動の手順を示すことで、学習の見通しを持つことができるようにする。                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                |
| 学校の現状から根拠を示して新しい校則を作成することができる。 |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                |
| ○校則作成に必要な情報を整理する。              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えに加え、「対立と合意」、「効率と公正」、他学年の見方・考え方を踏まえて作成できるよう促す。</li> <li>・机間指導の際、助言を行う。</li> </ul> <div> <p>★ICTの活用場面</p> <p>学校に提案する校則をこれまでに収集した情報や資料を参考にロイロノートに作成する。</p> </div> |                                                                                                                                |
| ○収集した情報などを根拠に校則を作成する。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの議論を通して、自分の考えを深めることができるよう促す。</li> <li>・新しい校則を作成するだけでなく、存在している校則の内容を一部変更することも認める。</li> <li>・根拠を示すことの必要性を改めて確認する。</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集し、「対立と合意」「効率と公正」などに着目してよりよい校則を考察し、表現している。</li> </ul> <p>【思・判・表①】<br/>(ロイロノート)</p> |
| ○振り返りを書く。                      | ・分かったこと、考えの変容、新たな疑問という視点を示し、ふり返りを促す。                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                |
| ○次時の内容について予告する。                |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                |

## 9 授業の様子（ICT 活用場面）

### ① 自分の考えで、校則を作成している様子。



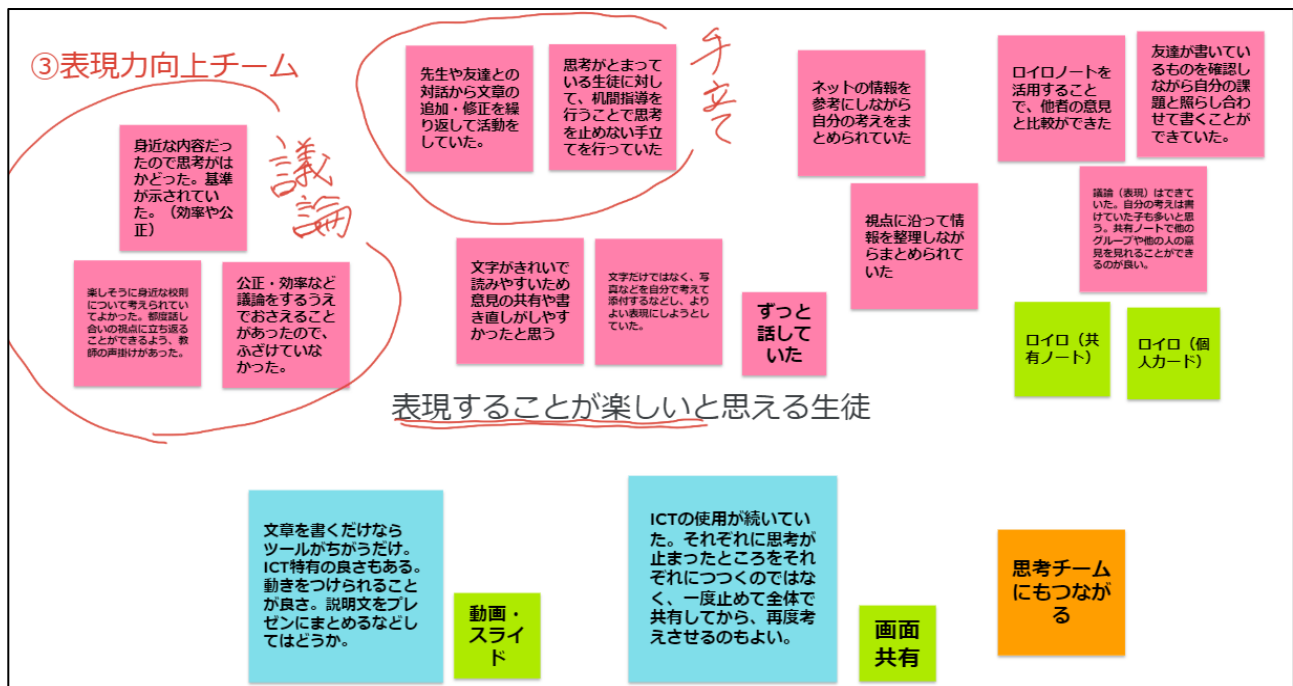
### ② 対立と合意、効率と公正の観点が含まれているか、グループで確認している様子。



### ③ グループ内で根拠をもとに相手に自分の考えを伝え、仲間からより良い内容にするための意見をもらっている様子。



## 10 研究授業後の協議（表現力向上チーム）



|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 成果     | <p>&lt;本時の目標※1等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちのグループで意見を出し合いながら課題解決しようとしていた。</li> <li>身近な内容だったので、思考が深まり、議論が活性化した。</li> </ul> <p>&lt;学校教育目標※2・研究テーマ※3・めざす子ども像（表現力向上チーム）※4&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字の工夫をしたり、根拠資料を用いたりしながら、相手にわかりやすく、説得力のある文に仕上げることができていた。</li> <li>他者の意見を比較・合意したり、批判したりするなどを通し、自分の考えを楽しんで深めて表現する姿が見られた。</li> </ul> |
| 課題     | <p>&lt;本時の目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会科（公民）として身につけるべき知識「対立・合意」について、きちんと理解できていない生徒がいた。</li> </ul> <p>&lt;学校教育目標・研究テーマ・めざす子ども像（表現力向上チーム）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT特有の良さである、動画・スライドでプレゼンテーションにまとめることができればよかった。</li> </ul>                                                                                                      |
| 今後に向けて | <ul style="list-style-type: none"> <li>動画・アニメーションを利用したICT活用を考える。</li> <li>ICTを個人で継続して使用するのではなく、思考が止まっていると感じられる場面において、全体共有をして再度考える時間を設ける。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                          |

※1 本時の目標：対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、決まりの役割について多面的・多角的に考察し、表現できる。

※2 学校教育目標：自立・貢献

※3 研究テーマ：探究的・対話的で自ら学びを深める授業の実現

※4 目指す子ども像：表現することが楽しいと思える子どもたち（振り返りチーム）